



2024年12月期 第1四半期決算短信〔IFRS〕（連結）

2024年5月15日

上場会社名 株式会社ノバレーゼ 上場取引所 東
コード番号 9160 URL <https://www.novarese.co.jp/ir/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 荻野 洋基
問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員経営戦略本部長 (氏名) 増山 晃年 TEL 03(5524)3344
四半期報告書提出予定日 2024年5月15日 配当支払開始予定日 -
四半期決算補足説明資料作成の有無：有
四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切り捨て)

1. 2024年12月期第1四半期の連結業績（2024年1月1日～2024年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		四半期利益		親会社の所有者に帰属する四半期利益		四半期包括利益合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年12月期第1四半期	3,696	11.0	△333	-	△394	-	△259	-	△259	-	△263	-
2023年12月期第1四半期	3,330	52.6	△383	-	△480	-	△323	-	△323	-	△325	-

	基本的1株当たり 四半期利益	希薄化後1株当たり 四半期利益
	円 銭	円 銭
2024年12月期第1四半期	△10.39	-
2023年12月期第1四半期	△12.93	-

(注) 当社は2023年5月25日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「基本的1株当たり四半期利益」を算定しております。

(2) 連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に 帰属する持分	親会社所有者 帰属持分比率
	百万円	百万円	百万円	%
2024年12月期第1四半期	33,579	7,918	7,918	23.6
2023年12月期	32,301	8,177	8,177	25.3

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年12月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2024年12月期	-	-	-	-	-
2024年12月期（予想）	-	0.00	-	0.00	0.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年12月期の連結業績予想（2024年1月1日～2024年12月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		当期利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		基本的1株当たり 当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	8,653	4.9	92	△66.8	△95	-	△64	-	△64	-	△2.56
通期	19,576	7.2	1,710	11.1	1,361	10.6	943	0.1	943	0.1	37.72

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年12月期1Q	25,000,000株	2023年12月期	25,000,000株
② 期末自己株式数	2024年12月期1Q	－株	2023年12月期	－株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年12月期1Q	25,000,000株	2023年12月期1Q	25,000,000株

(注) 当社は2023年5月25日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」、「期中平均株式数」を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) キャッシュ・フローの概況	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 要約四半期連結財政状態計算書	4
(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書	6
(3) 要約四半期連結持分変動計算書	8
(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(会計方針の変更)	10
(セグメント情報)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境が改善する下で各種政策の効果もあって、緩やかに回復しておりますが、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっており、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社グループにおきましては、「Rock your life 世の中に元気を与え続ける会社でありたい」との企業理念のもと、重点施策について取り組みを行ってまいりました。

重点施策の一つである新規出店については、2024年7月には、仙台市に宮城県初進出となる貸し切り型の婚礼施設「青龍荘」を開業します。

仙台藩祖伊達政宗公の霊廟(れいびょう)「瑞鳳殿(ずいほうでん)」に隣接する約2,556平米の敷地の一部に、2階建ての建物を新築します。場所は、木々に囲まれた高台で、瑞鳳殿周辺の杉並木や、仙台平野の西に広がる青葉山、市中心部を流れる広瀬川の豊かな眺望が広がる好立地です。列席者に提供する料理は、金華山や三陸沖の魚介など、地元食材をふんだんに取り入れた料理を提供します。

2024年9月には、福島県福島市に貸し切り型の婚礼施設「アマンダンアイル」を開業します。

「アマンダンアイル」は、荒川をはさんで「荒川桜づつみ公園」の向かいに位置する、自然豊かな眺望が特徴の結婚式場です。3,775.17平米の敷地に、平屋の建物(延べ床面積1,122.05平米)を新築します。建物の荒川側は全面ガラス張りの造りにします。披露宴会場とチャペルからは、荒川の桜が眼前に見え、吾妻小富士や安達太良山の雄大な景色がその奥に広がります。春の桜や夏の新緑、秋の紅葉、冬の積雪など、四季折々で移ろう景色を、婚礼演出に取り込みます。

2025年春には、静岡県駿河区に貸し切り型の婚礼施設「(仮称)HOMAM(旧マッケンジー住宅)」を開業します。静岡市の「旧マッケンジー住宅及び周辺市有地活用事業」に対し事業提案を行った結果、旧マッケンジー住宅とその周辺の市有地の貸し付けにおいて、当社が優先候補者に選定されました。

2026年春には、富山県富山市に貸し切り型の婚礼施設「(仮称)アマンダンブリッジ」を開業します。富山市の民間事業者のノウハウを活用することで連絡橋周辺広場やフットパスに賑わいを創出することを目的とした「呉羽丘陵フットパス連絡橋周辺広場官民連携事業」に対し出店応募を行った結果、当社を構成員とするグループが設置等予定者に選定されました。今後も官民連携のプロジェクトに積極的に取り組んでまいります。

婚礼施設におけるレストラン営業については、食べ放題のアフタヌーンティーなどを提供するスイーツビュッフェ「メゾン ド パルフェ」の開催やランチ営業を行う店舗を拡大しました。また、法人宴会等では受注体制を強化した結果、宴会の受注件数が増加するなど宴会・一般飲食についても好調に推移しました。

レストラン特化型事業の新規出店として、2024年7月に広島県広島市に和食料理店を開業します。また、アパグループが2024年12月に大阪市浪速区に開業予定の地上40階建ての超高層タワーホテルとなるアパホテル&リゾート<大阪なんば駅前タワー>のホテル内にカフェを開業します。

ブライダル事業における婚礼プロデュース部門の新規来館数は回復傾向にあり、好調に推移しました。その結果、受注組数は1,246組(前年同期比5.8%増)となり、受注残組数について一部既存店の競合他社との競争激化により前連結会計年度の下期において受注組数が伸び悩んだことから、3,250組(前年同期比7.0%減)となりました。

売上収益については、参列者数の増加や婚礼施設における宴会・一般飲食にかかる売上の増加等により、当第1四半期連結累計期間の売上収益は3,696百万円(前年同期比11.0%増)となりました。また、利益面では持続的成長に向けた先行投資として採用した人員増加に伴う人件費の増加、集客力向上に向けた広告費の増加等により販売費及び一般管理費が増加したことから、営業損失は333百万円(前年同期は383百万円の損失)、税引前四半期損失394百万円(前年同期は480百万円の損失)、四半期損失259百万円(前年同期は323百万円の損失)となりました。

なお、当第1四半期連結会計期間末における当社グループの店舗数は以下のとおりとなります。

セグメント	ブライダル事業			レストラン特化型事業
	ゲストハウス	ドレスショップ	その他	
国内	34	24	1	7
海外	—	—	1	—

セグメント別の状況は次のとおりであります。

(ブライダル事業)

ブライダル事業においては、前第1四半期連結累計期間と比較すると、参列者数も回復してきており、婚礼施設での宴会や一般飲食の需要も回復傾向にあることから、売上収益は3,445百万円(前年同期比9.8%増)となりましたが、持続的成長に向けた先行投資として採用した人員増加に伴う人件費の増加、集客力向上に向けた広告費の増

加等により販売費及び一般管理費が増加したことから、セグメント損失は70百万円(前年同期は83百万円の損失)となりました。

(レストラン特化型事業)

レストラン特化型事業においては、インバウンド需要や法人利用の回復基調による既存店の売上の増加の影響から、売上収益は250百万円(前年同期比30.2%増)、セグメント利益は11百万円(前年同期は0百万円の損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における資産総額は33,579百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,278百万円増加いたしました。主な要因は、営業債権及びその他の債権が16百万円減少したものの、借入金の増加等により現金及び現金同等物が933百万円増加、新店および既存店に係る有形固定資産の取得により有形固定資産が136百万円、繰延税金資産が135百万円増加したことによるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債総額は25,661百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,538百万円増加いたしました。要因は、法人所得税の支払により未払法人所得税等が348百万円減少したものの、金融機関との当座貸越契約に基づく借入等を行ったことにより借入金の純増加額が1,607百万円、顧客からの契約負債が252百万円増加したことによるものであります。

(資本)

当第1四半期連結会計期間末における資本総額は7,918百万円となり、前連結会計年度末に比べ259百万円減少いたしました。主な要因は、四半期損失を259百万円計上したことにより利益剰余金が減少したことによるものであります。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は2,653百万円となり前連結会計年度末に比べ933百万円の増加(前連結会計年度末比54.3%増)となりました。

当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、支出した資金は39百万円となりました。主な要因は、契約負債の増加額が252百万円および営業債権及びその他の債務の増加額が128百万円および減価償却費及び償却費を604百万円計上したものの、法人所得税の支払額が349百万円、未払消費税等の減少額が139百万円、利息の支払額が61百万円および税引前四半期損失を394百万円計上したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、支出した資金は391百万円となりました。主な要因は、2024年の新規出店および既存店に係る有形固定資産の取得による支出が390百万円あったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、獲得した資金は1,357百万円となりました。要因は、長期借入金の返済による支出が109百万円および建物等の賃貸借に係るリース負債の返済による支出が231百万円あったものの、短期借入金の純増加額が975百万円、長期借入れによる収入が723百万円あったことによるものであります。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期連結累計期間における当社グループの事業を取り巻く環境については、厚生労働省「人口動態統計」2023年速報値によると年間婚姻組数は50万組程度となる見込みであり、コロナ禍前2019年の約60万組(同「人口動態統計」)から大きく減少した状態が継続しております。

このような状況の中、アイテム等を内製化している強みを活かし、高付加価値商品の開発や効率化を推進してまいります。既存店においては、顧客志向を的確に捉えた機動的な改装や、積極的な広告宣伝活動を行い、魅力的な施設維持と集客および受注の強化を図ってまいります。

これらの取り組みにより、当連結会計年度の売上収益は19,576百万円、営業利益は1,710百万円、税引前利益は1,361百万円、当期利益は943百万円を見込んでおります。

2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 要約四半期連結財政状態計算書

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年3月31日)
	千円	千円
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	1,719,405	2,653,233
営業債権及びその他の債権	402,477	385,562
棚卸資産	241,505	244,732
その他の金融資産	20,033	19,573
その他の流動資産	140,739	222,292
流動資産合計	2,524,162	3,525,393
非流動資産		
有形固定資産	15,820,651	15,957,590
のれん	11,203,452	11,203,452
無形資産	71,268	71,657
持分法で会計処理されている投資	23,718	33,283
その他の金融資産	999,161	994,801
繰延税金資産	1,630,672	1,766,389
その他の非流動資産	28,313	27,398
非流動資産合計	29,777,239	30,054,574
資産合計	32,301,401	33,579,968

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年3月31日)
	千円	千円
負債及び資本		
負債		
流動負債		
営業債務及びその他の債務	1,427,247	1,580,297
契約負債	1,212,356	1,464,926
借入金	3,399,769	12,989,795
その他の金融負債	982,907	1,000,372
引当金	60,448	—
未払法人所得税等	349,179	1,091
その他の流動負債	745,531	587,117
流動負債合計	8,177,438	17,623,599
非流動負債		
借入金	9,688,801	1,705,900
その他の金融負債	4,937,598	4,992,384
引当金	1,271,155	1,285,433
その他の非流動負債	48,443	54,300
非流動負債合計	15,945,998	8,038,020
負債合計	24,123,437	25,661,619
資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	6,150,000	6,150,000
利益剰余金	1,865,936	1,606,079
その他の資本の構成要素	62,027	62,268
親会社の所有者に帰属する持分合計	8,177,964	7,918,348
資本合計	8,177,964	7,918,348
負債及び資本合計	32,301,401	33,579,968

(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書

(要約四半期連結損益計算書)

	前第1四半期連結累計期間 (自2023年1月1日 至2023年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2024年1月1日 至2024年3月31日)
	千円	千円
売上収益	3,330,090	3,696,322
売上原価	△1,638,395	△1,747,445
売上総利益	1,691,694	1,948,876
販売費及び一般管理費	△2,071,452	△2,285,552
その他の収益	5,196	8,707
その他の費用	△9,297	△6,005
営業損失(△)	△383,858	△333,974
金融収益	3,979	14,810
金融費用	△95,406	△84,882
持分法による投資損益(△は損失)	△5,686	9,564
税引前四半期損失(△)	△480,972	△394,481
法人所得税費用	157,602	134,624
四半期損失(△)	△323,369	△259,856
四半期損失(△)の帰属		
親会社の所有者	△323,369	△259,856
四半期損失(△)	△323,369	△259,856
1株当たり四半期損失(△)		
基本的1株当たり四半期損失(△)(円)	△12.93	△10.39
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	—	—

(要約四半期連結包括利益計算書)

	前第1四半期連結累計期間 (自2023年1月1日 至2023年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2024年1月1日 至2024年3月31日)
	千円	千円
四半期損失(△)	△323,369	△259,856
その他の包括利益		
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	△2,105	△3,985
純損益に振り替えられる可能性のある項目合計	△2,105	△3,985
税引後その他の包括利益	△2,105	△3,985
四半期包括利益	△325,475	△263,842
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	△325,475	△263,842
四半期包括利益	△325,475	△263,842

(3) 要約四半期連結持分変動計算書

親会社の所有者に帰属する持分

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	その他の 資本の構成 要素	親会社の 所有者に 帰属する 持分合計	資本合計
	千円	千円	千円	千円	千円	千円
2023年1月1日時点の残高	100,000	6,150,000	923,664	60,607	7,234,271	7,234,271
四半期損失(△)	—	—	△323,369	—	△323,369	△323,369
その他の包括利益	—	—	—	△2,105	△2,105	△2,105
四半期包括利益合計	—	—	△323,369	△2,105	△325,475	△325,475
株式報酬	—	—	—	4,226	4,226	4,226
所有者との取引額合計	—	—	—	4,226	4,226	4,226
2023年3月31日時点の残高	100,000	6,150,000	600,294	62,728	6,913,022	6,913,022

親会社の所有者に帰属する持分

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	その他の 資本の構成 要素	親会社の 所有者に 帰属する 持分合計	資本合計
	千円	千円	千円	千円	千円	千円
2024年1月1日時点の残高	100,000	6,150,000	1,865,936	62,027	8,177,964	8,177,964
四半期損失(△)	—	—	△259,856	—	△259,856	△259,856
その他の包括利益	—	—	—	△3,985	△3,985	△3,985
四半期包括利益合計	—	—	△259,856	△3,985	△263,842	△263,842
株式報酬	—	—	—	4,226	4,226	4,226
所有者との取引額合計	—	—	—	4,226	4,226	4,226
2024年3月31日時点の残高	100,000	6,150,000	1,606,079	62,268	7,918,348	7,918,348

(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	前第1四半期連結累計期間 (自2023年1月1日 至2023年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2024年1月1日 至2024年3月31日)
	千円	千円
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期損失(△)	△480,972	△394,481
減価償却費及び償却費	548,293	604,981
金融収益	△3,979	△14,810
金融費用	95,406	84,882
持分法による投資損益(△は益)	5,686	△9,564
固定資産除却損	6,297	5,281
営業債権及びその他の債権の増減額(△は増加)	1,492	22,393
棚卸資産の増減額(△は増加)	△12,966	△2,469
営業債務及びその他の債務の増減額(△は減少)	28,157	128,249
契約負債の増減額(△は減少)	316,566	252,565
未払費用の増減額(△は減少)	△47,808	1,001
預り金の増減額(△は減少)	4,155	13,591
未払消費税等の増減額(△は減少)	△385,877	△139,699
その他	△71,745	△181,566
小計	2,708	370,355
利息の受取額	614	483
利息の支払額	△62,340	△61,274
法人所得税の支払額	△209,024	△349,180
営業活動によるキャッシュ・フロー	△268,042	△39,617
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△731,250	△390,391
有形固定資産の売却による収入	10	850
無形資産の取得による支出	△1,995	△6,807
貸付けの回収による収入	5,016	5,110
差入保証金の差入れによる支出	△35,200	△1,100
差入保証金の回収による収入	—	501
投資活動によるキャッシュ・フロー	△763,418	△391,836
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△100,000	975,001
長期借入れによる収入	11,346,564	723,827
長期借入金の返済による支出	△11,548,908	△109,762
リース負債の返済による支出	△219,095	△231,668
財務活動によるキャッシュ・フロー	△521,439	1,357,396
現金及び現金同等物に係る換算差額	△562	7,884
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,553,462	933,827
現金及び現金同等物の期首残高	2,803,410	1,719,405
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,249,948	2,653,233

(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

本要約四半期連結財務諸表において適用する重要性がある会計方針は、以下を除き、前連結会計年度に係る連結財務諸表において適用した会計方針と同一であります。

当社グループは、当第1四半期連結会計期間より、以下の基準を適用しております。

IFRS		新設・改訂の概要
IAS第1号	財務諸表の表示	負債の流動又は非流動への分類に関する要求事項を明確化
IAS第1号	財務諸表の表示	特約条項付きの非流動負債

上記基準書の適用による要約四半期連結財務諸表に与える重要な影響はありません。

(セグメント情報)

(1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定および業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループのセグメントについては、事業の種類別に構成されており、「ブライダル事業」および「レストラン特化型事業」の2つを報告セグメントとしております。

「ブライダル事業」は、挙式・披露宴の企画立案、運営および婚礼衣裳のレンタル、販売ならびに婚礼飲食の提供を主な事業としております。

「レストラン特化型事業」は、宴会・一般飲食(ランチ・ディナー)の提供を主な事業としております。

(2) セグメント収益及び業績

当社グループの報告セグメントによる収益および業績は以下のとおりであります。

報告セグメントの利益又は損失は、要約四半期連結損益計算書上の営業利益であります。

なお、セグメント間の内部取引価格は、市場実勢価格に基づいております。

前第1四半期連結累計期間(自2023年1月1日 至2023年3月31日)

	報告セグメント			調整額 (注)	連結
	ブライダル事業	レストラン 特化型事業	計		
	千円	千円	千円		
売上収益					
外部収益	3,137,750	192,339	3,330,090	—	3,330,090
セグメント間収益	774	6,618	7,392	△7,392	—
計	3,138,524	198,958	3,337,482	△7,392	3,330,090
セグメント損失(△)	△83,557	△632	△84,189	△299,669	△383,858
金融収益					3,979
金融費用					△95,406
持分法投資損失(△)					△5,686
税引前四半期損失(△)					△480,972

(注) セグメント損失(△)の調整額は、主にセグメント間取引消去および各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

当第1四半期連結累計期間(自2024年1月1日 至2024年3月31日)

	報告セグメント			調整額 (注)	連結
	ブライダル事業	レストラン 特化型事業	計		
	千円	千円	千円		
売上収益					
外部収益	3,445,975	250,346	3,696,322	—	3,696,322
セグメント間収益	326	4,255	4,581	△4,581	—
計	3,446,301	254,602	3,700,903	△4,581	3,696,322
セグメント利益又はセグメント損失(△)	△70,019	11,066	△58,952	△275,021	△333,974
金融収益					14,810
金融費用					△84,882
持分法投資利益					9,564
税引前四半期損失(△)					△394,481

(注) セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額は、主にセグメント間取引消去および各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。